「日々の理科」（第 1979 号） 2019, 12, -9

「黄道と太陽系天体（３）」

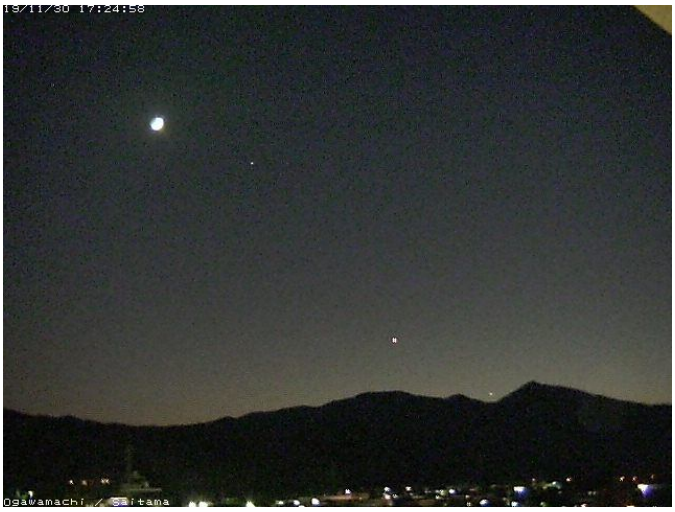
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

翌日の 11 月 30 日も、夕方の西の空に太陽系天体がほぼ一直線に並んでいた。

11 月 29 日には、土星と金星のほぼ中間の位置に月が見えていた。しかし一日後には、月は土星の左上に移動している。黄道（太陽の通り道）に沿って、月が左上（南側）に（見かけ上）移動したことになる。恒星の固有運動は、ほとんど固定しているほどゆっくりで、一日、一年のレベルで変化はしない。惑星は太陽の周りを公転しているが、一日程度ではほとんど位置が変化しない。しかし月だけは地球を公転しているので、見かけ上、一日に約 15°東に向かって移動し、月没も約 50 分ずつ遅れることになる。



実際の空でも、シミュレーション通りになった。

私はこの日北軽井沢に滞在していたが、山荘の庭からも、太陽系天体の様子がよく観察できた。カラマツの間に月や惑星が見えている。右下は浅間山だ。

私がカメラと三脚を持って庭に出た時は、すでに木星が沈む寸前だった。写真にはかろうじて写っていた。

私は同僚や友人も太陽系天体の直列を観察するように、Facebook、LINE、ツイッター、インスタグラムなど、SNS を通して呼びかけた。同僚の一人が、すばらしい写真を撮って送ってくれた。浦和市のマンションから見た西の空で、月、土星、金星、木星がはっきり写っている。スマホとは思えない鮮明さだ。一番右の木星の下には、うっすらと富士山も写っていた。